

第4回 高齢者支援ネットワーク懇話会 議事録（要旨）

- 開催日時 平成23年12月22日（火） 午前9時30分～11時20分
- 開催場所 役場3階大会議室
- 出席者 委員～12名、町～19名

委員	山瀬 稔	○	石川健吾	○	岩田有子	×	大西恵子	○	岡村省吾	○
	河原綾子	○	林 博六	○	廣部健二	○	松田敷子	○	三栖和之	○
	山本暉人	○	川端孝史	○	山口議史	○	笈下商工会事務局長			
町	北町長、三本副町長 南課長、 岩口課長、川股局長、馬場係長、 篠田課長、秋葉課長補佐 小澤課長、本田係長、石塚保健師、渡辺主査、 鈴木次長、 林事務局長 碓井課長、相澤係長、遠藤主事、星野主事、都築主事									

1. 開 会（碓井課長）

2. 座長挨拶

年末を迎え、委員の皆さんにおかれましては、何かとご多用の中、お集まりを頂きありがとうございます。

本日は、4回目ということで、前回、お話ししましたとおり、「民間サービス や 地域コミュニティについて」を議題といたします。それでは早速ですが、町長より、ご挨拶をお願いします。

3. 町長挨拶

皆さん、おはようございます。年末に向け、何かとお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、第4回目の懇話会ということで、最初に民間サービス、地域コミュニティについて、意見交換を行いたいと考えています。

民間企業ということで、JA新すながわのAコープの配達に関するルール、商工会からは、ふれあいネットワーク事業、また、地域コミュニティと云うことで、社会福祉協議会の事業について、それぞれご担当の方から説明をしていただき、皆さんと意見交換を行って参りたいと考えています。

議題の2番目では、かねてよりご協議をいただいている「仮称・地域活性化ホールの基本構想」に対する ご意見をいただきたいと思います。

委員の皆さんには、すでにご案内の方もいらっしゃると思うが、9月より、農協の杉本組合長や 石川 商工会長らと話し合いを進めて、基本構想 策定に当たっての“たたき台”となる図面を作りました。12月2日より、アンケート調査を実施して、現在、集計作業に入っていますが、12月12日には、まちづくり町民委員会でも、このことについて議題に挙げご意見をいただきま

した。高齢者支援ネットワーク懇話会の中で、「気軽に出かけられて、誰かに会え、サロンのようなお茶を飲んで、話ができる場所が必要」というご意見がありました。

そして、買い物帰りなど、若いお母さんたちにも、気軽に立ち寄って利用できるような施設づくりを行いたいと考えています。委員の皆さんからもご意見をいただき、よりよい施設にしていきたいと考えており、たくさんのアイデアをお出しいただくよう、よろしくお願ひします。

4. 議 題 奈井江町の高齢者世帯の状況、民間サービス・地域コミュニティに関する意見交換 1) (岩口課長より説明【資料8】当日配布資料)

本日お配りしています、資料8をご覧ください。この数字は10月末現在の住民基本台帳の数字となっており、高齢者人口が34.9%と35%近く、75歳以上人口が19.4%となっています。

高齢者のみの世帯ですが、1,100世帯となっており、第1回目の会議にお示しした数字が1,400世帯と若干差があります。これについては、集計の誤りがありましたので、ここで訂正させていただきます。

その他、高齢者のみの世帯のうち、夫婦世帯が446世帯、単身が637世帯、その他が17世帯は高齢者の兄弟や親子で住んでいる世帯が該当します。米印で記しているのは民生委員による調査で、施設入所や長期入院や住民票上での世帯分離などは除いており、実質の単身者に近い数字となっています。一番下の段には世帯の中に高齢者がいる世帯の人数を記しています。米印以外の数字は住民基本台帳に登録されている数字なので、若干実態とは異なる部分もあります。

2) Aコープ奈井江店での配達ルールについて (JA新砂川川端参事より説明【資料1】)

3) 商工会「ふれあいネットワーク (サンタサービス)」について (商工会山口副会長、 笥下事務局長より説明 【資料2. 3】)

4) 「社会福祉協議会の事業」について (川股事務局長より説明 【資料4. 5】)

5) 「その他の民間サービス」について

(包括支援センター渡辺主査より説明【資料7】 当日配布資料)

一つ目が給食サービスですが、社会福祉協議会で行っているほかに、新しいえ温泉で1食400円で月～土曜日までの昼食を提供しています。その他に砂川市のミールケアげんきっちゃんという、1食630円で毎日昼と夜の配食サービスの他に、その他に記載していますが、治療食の対応も可能ということで、糖尿病食や減塩食など若干料金が上乗せになりますが、対応していただけるということです。食事に関する部分で記載はしていませんが、食の確保ということで、生協で行っている宅配システムのトドックを利用されている方もいらっしゃいますし、移動販売車ということで、南町近辺に火・金曜日の週2回来ているというお話も伺っています。

次に移送サービスということで、先ほどダイハツさんでも行っているというご説明がありましたが、砂川市ではリンゴケア、上砂川町では福祉タクシー友愛というところで移送サービスを行っています。料金については記載の通りで、タクシーメーターのように距離によって加算されていきます。

次に居住サービスですが、高齢者向け賃貸住宅の「えいな の里」ということで、12月にオープンしています。敷金・仲介料でそれぞれ5万円、毎月の費用で71,000円ということで、内訳については記載の通りです。

最後に生活支援サービスということで、介護保険以外のサービスなのですが、砂川市のリングケアでは話し相手や囲碁やカラオケなどの趣味活動に同行したり、書類の代筆や通院介助や買い物の支援ということで、料金が10分100円～400円と内容によって料金が異なるそうです。もうひとつは認知証支援ボランティア団体『ぽっけ』です。主に買い物の代行や通院の付き添いや話し相手ということで、1回1時間程度600円のご負担でご利用いただいています。

(座長) 以上、民間サービスの説明をいただきましたが、これらについて、皆さんから提案やご意見などあればお願いします。

(岡村委員) 社会福祉協議会事業の小地域ネットワーク事業の活動ということで説明がありましたが、以前はヤクルトの配達で声掛けをして安否確認するという事業があったと思うのですが、予算の関係でこの小地域ネットワーク事業に変わったかと思います。現在自分もヤクルトを取っていますが、配布の際にきちんと声掛けをしてくれるのですよね。この声掛けで、例えばヤクルトが箱にたまっている場合などに連絡が来るといような体制となっているのかということをお聞きしたいと思います。

次に救急医療情報キット配布事業についてですが、これは非常に大事な事業だと思うのですが、どのくらいの普及状況なのか教えていただきたいと思います。

あと、日常生活自立支援事業ですが、奈井江町での取り組み状況も教えていただきたいと思います。

(岩口課長) ヤクルト配達事業は平成15年まで実施しており、平成16年からは小地域ネットワーク事業を開始いたしました。ヤクルト配達時の声掛けについては、1972年くらいから会社の取り組みとして行っているようで、その活動については大臣表彰も受けているとお聞きしています。町との関わりですが、ヤクルトがたまっているなど異変があれば、役場や警察などに連絡が行くシステムになっていると聞いています。あわせて郵便局や社会福祉協議会で行っている給食サービスについても何か異変があれば連絡がくるという体制となっています。

(川股局長) 救急医療情報キットの普及状況ですが、現在約200セット提供しております。対象人数が200人ということではなく、高齢者の世帯とか親子なども含んでいますので、1セットに2枚入る場合もあります。先ほどお話のありました、65歳以上の人数が2,100人なので、約1割の配布です。話を聞くと、本人が字が書けないとか、書くのが面倒だ、よくわからないという方もいらっしゃるみたいですので、再度連合区ごとにお願いの文書を出しているところです。自立支援事業の奈井江町の取り組みですが、生活支援員を推薦するという窓口や、実際に利用する方が最終契約をする際の会場の提供などを行っています。

(小澤事務局長) 現在SOSネットワーク事業ということで、現在町内事業所や警察、消防、包括支援センターやおもいやり課などで組織しています。行方不明者が発生した場合はこちらに連絡がくるという横の連携が組まれています。今後この組織をより綿密にするためには地域住民の皆さんのご協力を含めてネットワークの強化を図れるよう体制づくりをしたいと考えています。

(大西委員) 救急医療情報キットなのですが、先日釧路市の社会福祉協議会の方とお話をしました。釧路市では、お金をかけないで使用済みのペットボトルを切って、その中に入れてはめ込む形にして全世帯に置くようにしたいということで、普及は高まっているようでした。

(廣部委員) 今の救急医療情報キットですが、救急隊員が救急で来た際にその方の情報があればいいということで、今年4月から始まった事業です。中に入れる用紙については必要事項など社会福祉協議会で作っています。何かの会議の時や連合区での集まりなどで職員がお伺いし説明しますので、どんどんご活用いただければと思います。

(碓井課長) それぞれ民間で行っている取り組みを、連携を取りながら有効に広めていくということを、このような機会ですから課題も含めてご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。

(松田委員) 農協の配達の日曜日もしていただけるようになったので、高齢者の私たちにとっては大変助かります。

(林委員) 私たちも段々と年を取っていくと、買い物にも行けなくなるのかなと思っているのですが、農協などで買いたいメモを持って行くと品物を揃えてくれるようなシステムがあればと思います。店舗も広がるので、どこに何があるのか分からないということもありますし。

(川端委員) 今、話がありました農協Aコープについてですが、昔は砂川の農協が売り上げが伸びていましたが、ふじが入ってきて、北海道でも最大のアークスグループでの仕入れで農協よりも仕入れ値が安く、そのような状況で利益が出なくなってきました。あと、ご存じだとは思いますが、空知太店は来年1月に閉店します。閉店にあたっては地域住民から非常に強い反発がありました。ですから、空知太店を閉店するのに、奈井江店のサービスを向上するというのは難しいところがあります。あと、1・2年経てば農協全体の収支も改善していきますので、Aコープ奈井江店の改修や、配達等のサービスも拡充していきたいと思っています。

(石川委員) 民間サービスや社協のサービスもよく分かりましたが、奈井江町の高齢者世帯の状

況などをみると独居の世帯が 432 世帯あり、商工会でのサービスの中で配達サービスなどを行っていますが、単純に人数割すると月に 6 件くらいの利用です。民間サービスも含め、利用率や課題を独居老人の方の求めているニーズがどこにあるのか、課題として浮き彫りになってきているところも見えてきていないと思います。アンケート調査などを実施している部分があれば教えてほしいと思います。

(碓井課長) おっしゃる通り、どのようなニーズがあるのか、それをもとにどのような対策があるのか基本になると思います。この懇話会の最初にひとつの例として介護保険事業の中でのアンケート調査ということで、ご説明させていただきました。

私の所管で、例えば、地域交通として“足”をどうするか、ということで来年度以降の内部での検討課題となっているところです。事業を行うにあたり、事前に調査をしてどのような形が望ましいのか実証実験をしたり、つい先日も先進地の倶知安町へ視察に行かせていただいたり、実態を捉えて前に進んで行くというのが有効な手段だと思っています。今後の対策に向けて、どうあるべきかと検討したいと思いますし、農協や商工会の事業についても同様だと思います。農協でも店舗の改修の関係でアンケートをとられたこともありますよね。そのように調査の重要性は十分に認識していますのでご理解願います。

(三栖委員) 各個人がそれぞれの意見を持ち考え方が異なってくるので、全てが同じ方向には向かないのが現実で、全てに対応しようとしても無理ですよね。一部の人には良くなっても、もう一部の人には悪くなってしまう、その辺が難しい問題ですよね。

農協にしても商工会にしても、高齢者に対応してあげたいという気持ちはわかるのですが、考え方が一致していないので、対応するのが大変だと思います。また、それに対して高齢者もなかなか声をあげづらいと思います。

(座 長) やはり押しつけではなく、どのようなことをやったらよいのかという色々な意見を聞きながらではないといけませんよね。

(山本委員) 救急医療キットなのですが、先ほど説明ありましたが、配布個数が 200 セットほどということで、高齢者の 1 割程度ですね。これは地区ごとにまとめさせるという方法はとれないでしょうか、あくまでも個人で任意なのでしょうか。先日も近くで救急車が来たときに救急隊員に「救急医療キットが冷蔵庫にありますか」と言われ、探してみたのですが、それらしいものはなかったことがありました。高齢者に対しては全て配布する、というようにしたらどうかと思います。

(川股局長) 救急医療キットについてですが、添付している救急医療情報と、入れ物を配布することで終わらせてしまうと、白紙のまま冷蔵庫に入っても意味がないと思います。用紙に記入していただける方が近くにいるか、もしくは何かしらの会合の時に皆さんで見ながら書いていただく考えもあり、配布と記入についてお願いしている

ところですが、書くことが困難ということであれば社会福祉協議会の窓口に来て代筆することも可能ですし、地域の会合にお呼びいただければお伺いするなどしてバックアップしていきたいと思います。

5) (仮称) 地域活性化ホールの基本構想について

(ふるさと振興課 秋葉課長補佐より説明【資料6】)

- (座長) ただいま事務局から説明がありました地域活性化ホールについて、委員のみなさんからご意見があれば、いただければと思います。
- (岡村委員) 多目的ホールなのですが、利用が予約制ということになると、葬儀との関係がどうなるのかということですね。予約をしたい行事があっても葬儀はいつ行うかわからないために、多目的ホールの活用が難しくなり矛盾してくる。利用してほしいが、予約はしづらい。ここをどうクリアしていくのか大事なことだと思います。
- (篠田課長) 基本的には葬儀を優先させていただきたいと思っています。しかし、予約をしているのに、利用できないということで、アンケートにもなかなか利用しづらい多目的ホールになるのではというご意見もでてきています。この点については、今後3者でどのようなカタチが一番いいのかを検討していきたいと思っています。また、葬儀を行っているときに交流エリアの方をどうするのか、というご意見もいただいています。できればドアなどで仕切れるような形で建て方も工夫をしていきたいと考えています。
- (岡村委員) 最近葬儀も家族葬などで規模が小さくなってきていますよね。できれば100人程度での葬儀会場が主に使用されるのであれば、そのような設計を考えればと思います。
- (篠田課長) 先ほどご意見のあった家族葬も増えているということでしたが、実際に葬儀業者に聞いてみると、身内だけで行う場合は20人程度、近しい友人で行う場合は40名程度、もう少し多くて80名程度で、平均100名程度だそうです。奈井江町では著名な方は別ですが、多くても150名程度だそうです。また、身内だけで行う場合は和室だけを利用してもできるのかなと思っています。他のマチの施設で月形町や浦臼町で同じように葬儀場として使用している施設がありますので、十分参考にしたいと思っています。
- (松田委員) 買い物の帰りにでも気軽に立ち寄りください、とのことですが、店の外に出たらすぐに自宅に帰ると思います。農協から一本通路があれば行きやすいのでは。
- (川端委員) このホールについて町から提示されたときに、農協の店舗もリニューアルしてはどうかということを言われています。農協でも内部で検討しているのですが、先ほど

も言いましたが、農協の収支もあと2年くらいで改善します。その理由というのが、農協は資金のほとんどを北海道信連、農林中央金庫に預けているのですが、数年前のリーマンショックで、ほとんどの金融機関が損失を被りました。同じように2社も損失したのですが、あと1・2年で回復する予定となっています。この2社が回復すれば農協の収益もあがり、Aコープのことも出来ると思います。

平面プランに農協の現店舗が実線で書かれているのですが、点線の位置くらいに新たな店舗を建設してはどうだろうかという話も出ています。本当は南側に寄せて建設すると駐車場も大きくとれるのですが、そうすると店舗の入り口が北側か西側になってしまいます。北側の入り口というのが、今、砂川店の入り口が北側なのですが、管理が非常に大変で日陰になって雪がとけなく凍ってしまい、高齢者の方から苦情がきます。そうなった場合、点線の位置くらいに店舗を置き南側の玄関にするといいのではと思っています。そうすることによって、交流エリアが見やすくなりAコープから行きやすくなるのではと思っています。図面を見ますと、交流センターに庇がついていますよね。このような庇にあわせてできればいいなど内部でも検討しています。

(三栖委員) 現在店舗南側に個人の住宅があるのですが、そこについては今回の活性化ホールの建設では支障はないのか。

(篠田課長) 今回建設を予定しているのは、現在店舗の後ろにある農協所有の倉庫群を取り壊し町が買い取り、ホールの建設を計画しているので、個人の住宅には支障はありません。東1条通りは14号に向かって段々と傾斜がついていますが、ここはすでに下水管などが入っており、この道路を新たに整備するとまた費用がかかるので、現存のまま活用したいと思います。それと、駐車場をこちら側に持ってきた理由として、文化ホールの駐車場があるのですが、停める台数が少ないということで、両方の施設の駐車場として活用できないかということや、横には駅の駐車場もありますのでこれらも繋げて利用しやすいように活用できればと思っています。

(三栖委員) 200人程度収容となると、町内のお寺でもできますよね。

(篠田課長) 今現在の葬儀の現状で行きますと、年間80件ほど葬儀が行われています。平成22年度の状況ですが、町内のお寺で葬儀を行ったのが21%、自宅が1%程度で町内会館が2%という状況です。町内で対応している葬儀は合計25%程度、町外の葬儀会場を利用しているのが、75%というような状況です。今委員さんからもお話があったとおり、商工会で椅子を使って町内のお寺で葬儀を行った場合、どのくらいの人数が入るのかという調査も行ったようです。

(北町長) 5年ほど前は60%くらいが町外での葬儀場の利用だったのですが、現在75%が町外の葬儀場で行っています。町内のお寺などの利用が少なくなっている原因は

というと、葬儀場で行うと業者が全てやってくれて楽だということ、あと、足場が悪いということで、階段や段差がない会場が望まれます。また、お寺は玄関があり、靴を脱いで入るのですが、終了時に靴を探す方が結構いるようです。そのような色々な原因も含めてぜひ身近なところで葬儀が出来ないかという声がありました。このような実態を考えていき、皆さんにもこのような施設にしたらよいというご意見もいただきたいと思います。

(三栖委員) このホールの収容人数はもう少し多くならないのですか。

(篠田課長) 調査でも葬儀の参列者が多くても150名程度です。ホールの広さについても今後検討委員会でも協議していきたいと思います。

(碓井課長) ホールについては壁を可動させて用途に応じて広く使えたり、逆に間仕切りなどを使って家族葬などにも使えないかとか、和室も畳ではなくカーペット敷きにすることで椅子でも使用できるなども検討しているところです。

(北町長) 町外で葬儀をやると、買い物も身近なお店で買ってしまうのが現状です。町内で葬儀をやればそれだけ地元で買物をしていただけます。

(座長) まだまだご意見あるかとは思いますが、みなさん全体を通してご意見ありますでしょうか。

(岡村委員) 施設を造る以上は、できるだけ自分たちも町内で葬儀をやろうという空気をつくっていくのも大事だと思います。

先日の道新だったと思うのですが、特別養護老人ホームの待機者の記事が載っていましたね。確かにあの方が申し込んだときは待機者が80名、3年経っても50番目ということで、これはこれで事実だと思うのですが、奈井江町ではいち早く健寿苑ができて、特別養護老人ホームができて、町立国保病院には療養型病床として30床があり、待機者としては50名といるのですが、それぞれの施設に入所している方がかなり多いと思います。実質在宅で介護に困難を来している方がいるのかを町民にお知らせすることが大事だと思います。このような機会ですので、情報を共有するという意味でもご説明いただきたいと思います。

(三本副町長) 施設として押さえている待機者の台帳では12月末現在で99名の方が待機者という扱いで載っています。その内訳はと言いますと、医療機関への入院している方が町立病院で23名、その他の病院で6名、計29名の方がいます。町内外にある、高齢者向けの福祉施設に入所されていて、将来やすらぎの家に入所を希望されている方が54名いて、在宅の方は16名です。過日新聞に載った方についても施設に入所されていて、やすらぎの家への入所を待っているという方です。

現在やすらぎの家はほぼ満床という状況であります。在宅の16名についてもおそらく、いくつかの施設に重複登録して待機されている方もいると思います。奈井江町では健寿苑もありますし、町立病院にも療養型病床もありますので、それらを利用して少しでもご家族の方の負担が少なくなるようにケアが出来ればと思っています。そのような現状を町民の皆さんに理解していただけるように工夫をしていきたいと思っています。

(北町長) やすらぎの家を在宅で待機している方の中でも要介護度を持っている方は3～4人と聞いています。要介護度を持っていないと入所できない基準があるものですから、そのような意味でもなかなか入所できないということもご承知ください。大切なことは、共通の認識を持ち問い合わせがあった時にはきちんと今の状況を述べながら、奈井江町はこのようにやっているということを説明しなければ誤解を招いてしまいますので、十分に注意しなければなりません。

(石川委員) 地域活性化ホールのアンケート調査を回答した方が387件ということでしたが、このアンケートの中で子どもさんのアンケートは入っているのでしょうか。

(篠田課長) 町長と語る会ということで、町長が毎年各小中高に出向いて子どもたちとまちづくりの意見交換をしています。その場で意見交換ができればいいと思ったのですが、時間的に制約があったので、今回は中学生と奈井江商業高校にアンケート調査をご協力いただきました。中学校は151名、高校は102名の方がアンケートに協力いただきました。

(石川委員) それを踏まえてなのですが、基本構想にも書いてあります“子どもからお年寄りまで誰もが使いやすいホールにしたい”というのはいいいことだとは思いますが、なかなか難しい面があります。例えば南町にある茶志内公園で、子どもが遊んでいて、お年寄りの方がパークゴルフをしていたら、子どもがうるさくて、という問題もありました。構想としてはいいのですが、やり方一つ間違えると子どもが寄らなくなる施設になると困るし、葬儀として使用した時に交流ホールで騒いでいるのではよくないと思いますし、ソフト面についてもこれから構想を練っていただき、ぜひ使い勝手のいい施設にしていきたいと思います。

(松田委員) 地域活性化ホールの建設にあたって小中高と連携を組んでいただき、子どもからも様々な意見が出ると思いますし、また、若いお母さん方も活性化ホールに出向いてくるように、これからも話しあっていただきたいと思っています。

(北町長) 町長と語る会として奈井江商業高校と江南小学校、奈井江小学校の児童生徒のみなさんと町政全般にわたりまちづくりの意見交換をさせていただきました。高校での意見交換で、図書館を地域活性化ホールに移動してくれないかという意見もまし

た。それはちょっと難しいのですが、別の目的で集ったり、休んだりできる活用方法を皆さんから提案してくださいと投げかけました。すぐは出てこなかったのですが、提案していきたいというお話もいただきました。

江南小学校の児童の皆さんからは“お年寄りとふれあいたい、語り合いたい”という意見がでました。

また、町立病院の医師から聞いた話では、現在インフルエンザの予防接種でたくさんお子さんが病院に訪れているのですが、子どもたちの姿をみてお年寄りがニコニコしている、これは冗談ですが、診察しなくても治るような気がしたと言っていました。そのようなことから、この地域活性化ホールを交流の場としてどのように活用していくか、この工夫がなかなか難しいと思いますが、その接点づくりについて皆さんのご意見を伺いながら考えていきたいと思っています。

(座 長) 予定の時間も過ぎていきますので、会議を終了したいと思います。事務局から連絡事項はありますか。

(碓井課長) 地域活性化ホールについて意見をいただきました。先日のまちづくり町民委員会でもご意見をいただきましたが、本日いただきましたご意見についてもアンケートと同じ扱いで集計の中に意見として入れさせていただきます。

次回の会議は2月を予定しています。活性化ホールの進捗状況や新年度の予算なども固まってきますので、関係する部分がありましたら皆さんにご説明させていただきますのでよろしくお願いします。

(座 長) 長時間にわたり貴重なご意見、ご提案ありがとうございました。以上で懇話会を終了させていただきます。